特集 Special Issue

ツナグ・人と地域と農業

6次産業化で輝く農業と地域の可能性

農村の長い歴史の中で培ってきた貴重な地域資源。特色ある農畜産物を新たな形で発信する。

農業所得向上と農村の活性化につながる新たな農業の形

農業生産額及び、農業所得は、近年大きく減少している。約20年前は全国で約6兆円近くあった農業所得も、平成25年には約3兆円と半減。農業と農村全体の所得の向上は、農畜産物を生産するだけでは難しい現状がある。

そんな中、必要なのは、農畜産物に付加価値を付けて販売に繋げる事や、異業種との横の繋がりを持ち、新たな農畜産物の価値を見いだし、地域特有の商品として発信する事。

その商品に込められた思いやストーリーを多くの人が知り、評価される事で地域や商品の知名度はあがる。それが農業の新たな可能性を生み出し、農村の活性化、そして農業所得の向上に繋がっていくのだ。

そのきっかけのひとつが、生産者自らが展開する、農作物に付加価値を付けて販売につなげる「6次産業化」と、生産者と商工業者がそれぞれの有する力を互いに持ち寄り、新商品の開発や発信につなげる「農商工連携」。

これらは、農業者らの所得や経営の向上はもちろん、地域の活性化や観光入込客数の増加、農作物のアピールにもつながる。

6次産業化ってなんだろう?

6次産業化とは、農林漁業者が第1次産業（生産）だけでなく、第2次産業（加工や製造）や第3次産業（販売等）にも主体的にかかわり、農林水産物の付加価値を高めること。

6次産業化の形態には、農産物加工、直接販売、観光農園、農家民泊、農家レストランなどもあげられる。1次から3次まで一体化した産業として農林漁業の可能性を広げようとするもの。

農商工連携ってなんだろう?

農商工連携とは、農畜産物や美しい景観など、地域の貴重な資源を有効に活用する為、農林漁業者と商工業者がお互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大などに取り組むこと。

6次産業化に取り組むやまに農産株式会社の「つきざわワラビ園」で、地元名産品の西わらびの収穫体験をする観光客。体験者からは「自然が美しい」「この町の事をもっと知りたい」「自分で収穫する喜びがたまらない」「また来たい」という声がきこえた